

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1473300836		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜三保		
所在地	横浜市緑区三保町226-3 (電話) 045-924-2861		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市港北区新吉田東5丁目76-35		
訪問調査日	平成20年2月15日	評価確定日	平成20年3月18日

## 【情報提供票より】(20年2月4日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 6 人, 非常勤 18 人, 常勤換算	12.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( ) 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 120,000円 ) 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(2月4日現在)

	18 名	男性 7名	女性 11名
要介護1		2名	要介護2 9名
要介護3		3名	要介護4 3名
要介護5		1名	要支援2 0名
年齢	平均 82歳	最低 65歳	最高 93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新横浜中央クリニック 旭中央総合病院 更正病院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇事業所は自然に囲まれ四季の移り変わりを楽しめる恵まれた環境に位置している。野鳥も多く餌付けにも成功して利用者も共に楽しんでいる。近所の農家から新鮮な野菜の提供もあり、利用者の食卓に彩りを添えている。  
 ◇医療と福祉の連携が本人や家族の安心感につながっている。利用者や家族、医師、職員が入所時に医療方針を確認し意識を共有している。また、訪問医や看護師と医療面での連携体制を整備し、重度化した場合や終末期に安心して過ごせるようにしている。  
 ◇「笑顔」を事業所の理念として掲げている。利用者や職員共々に明るく笑顔で、生き生きと生活している。地域の行事に積極的に参加し利用者の気晴らしや楽しみが多い。壁に貼られた行事や家族との記念写真には、どれも家族的な暖かさがある。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を受けて居心地の良い空間づくりに努めている。リビングの窓にレースカーテンを取り付け、気分転換の雰囲気作りをしたり、居室のドアに個性豊かな暖簾をかけて、開けたままでもプライバシーが保てるように工夫している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目4)</p> <p>職員会議で評価の意義を職員に周知し、職員各自が自己評価を行い、管理者がとりまとめた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は自治会副会長、家族代表、管理者が参加して平成19年7月に1回目を開催し、その後3か月ごとに開催している。運営推進会議では事業所の活動状況を報告し、活動計画、事故の内容等を議題にしている。意見交換を通して地域の人に事業所をよく理解してもらうように努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族へは毎月「一言通信」で利用者の健康状態や生活状況を報告している。家族の意見や苦情は家族会で話し合っって対応している。また、玄関に「ご意見提案ポスト」を設け、意見・要望についての相談をしやすい環境作りをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。利用者参加の地域行事にはお正月の集いやお花見、七夕祭り、敬老祝賀会、地域の子供フェスティバル、区民祭り、盆踊り、愛のフェスティバル、花火大会など盛んである。年間を通じて毎月行事があり、地域の住民やボランティア、家族も参加し地域との交流を積極的に行っている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に作り上げた理念は「笑顔」である。職員間の連携により利用者の笑顔につながるサービスに努めている。日常生活で利用者の笑顔を引き出す環境作りに取り組んでいる。散歩では地域の人々とも笑顔で挨拶している。	○	地域密着型サービスの役割を込めた理念の検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「笑顔」を玄関と各フロアに掲示している。朝夕の申し送り、ミーティングで理念についての意識の徹底を図っている。職員同士、理念に基づく気づきを共有し合い、生活のなかに利用者の笑顔が見られるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。七夕祭り、敬老祝賀会、子どもフェスティバル、盆踊り、区民祭り、愛のフェスティバル(擁護施設)、小学校で行われる行事など地域の行事に積極的に参加している。地域とのつながりを大切にし、地域の人々との交流を図り利用者へのサービスに活かしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議で評価の意義を職員に周知し、職員各自が自己評価を行い、管理者がとりまとめた。評価での指摘事項については改善計画を立てて取り組んでいる。居心地のよい空間作りの指摘に対して、リビングの窓にレースカーテンを取り付け、気分転換の雰囲気作りをしたり、居室のドアに個性豊かな暖簾をかけて、開けたままでもプライバシーが保てるように工夫している。		
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は自治会副会長、家族代表、管理者が参加して平成19年7月に開催し、その後3か月に一回開催している。会議では事業所の活動状況を報告し、活動計画、事故の内容等を議題にしている。意見交換を通して地域の人に事業所をよく理解してもらうように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課へは、認定更新手続きなどの相談、保護課とは連絡や情報交換を密に行い、ケアサービスの向上に努めている。また、グループホーム連絡会に参加して情報入手に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族へ「一言通信」で利用者の健康状態や生活状況を報告している。家族の面会時には必ず状況報告と介護計画を説明し、また、小遣い帳の確認をしている。緊急の場合は電話で連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回、家族会を開催し要望を聞いている。個々の面接時にも意見を聞き運営に反映している。玄関に「ご意見提案ポスト」を設置して誰でも意見や提案を出しやすいようにしている。家族の意見は職員会議で検討し運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年間は職員の異動はない。利用者には馴染みの職員が継続して支援している。異動に際しては、利用者に不安を与えないように、スムーズな移行ができるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は利用者一人ひとりに応じた支援がどうあるべきかを、ミーティングや申し送りノートで職員に周知し、職員全員が意識を共有して支援するように指導している。内部研修は職員の職務経験に応じて月に3回実施し、ADL低下に伴うケアの仕方などを課題にしている。また、外部研修の結果は管理者に報告し、職員全員に回覧して成果の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所が合同で毎月1回、営業部、管理者、ケアプラン委員、安全委員が出席してエリア会議を開催している。会議では同業者の情報を共有し、同時にサービス向上の研修会を開いている。また、横浜市グループホーム連絡会に加入し情報収集に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては営業担当者が利用者宅を訪問し、本人や家族の不安や要望を聞き取り、利用者の理解に努めている。また、ホームの内覧会に本人に来てもらいホームの雰囲気馴染めるかどうかを確認してもらっている。本人の安心と納得が得られるまで家族共々、時間をかけて検討してもらっている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から料理やお菓子作りを教えて貰い、月に1～2回、お菓子作りを利用者と共に楽しんでいる。職員は利用者が何を求めているかを傾聴し、共感し、利用者が安心できるように心がけている。職員は日常生活の中で支え、支えられる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者がお茶を飲んでリラックスしている時に、一人ひとりの思いや希望を聞き取っている。コミュニケーションが困難な場合には、居室担当の職員が雰囲気から希望を汲み取り、気づいたことはメモに残している。家族からも意見を聞きカンファレンスで話し合い、ケアプランに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員が出席する月1回のホーム会議での意見や家族からの要望、職員の気づきをまとめて全職員に配布し、意識を共有して介護計画を作成している。職員全員に介護計画に沿った支援を周知している。変化が見られるときはその都度、介護計画の見直しを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月に1回介護計画を見直している。変化の無い利用者の改善にも心がけている。新しい試みに対して、良かったかどうかを評価し、臨機応変に介護計画を見直している。心身の状況に変化が見られた時は再アセスメントとモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関への通院や送迎を行い、適切な医療を安心して受けることができるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医が月2回訪問診療している。訪問歯科医は月2回往診し、また、歯科衛生士が週1回口腔ケアを行っている。かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重して決めている。医療連携体制加算の指定を受けている。月2回、訪問看護師が健康管理・健康相談を行っている。利用者と職員は、年1回協力医療機関で定期健康診断を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に契約書に基づき、「重度化した場合の対応に係る指針」について説明し、「医療連携体制同意書」により本人・家族の同意を得ている。利用者や家族、医師、職員等が連携をとり、方針を共有し、安心して終末期を過ごせるように支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に個人情報保護法を説明して守秘義務を徹底している。職員は利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねることのないように、トイレの誘導も目立たず周りが気付かないように自然に行っている。 個人記録や個人情報ファイルは、施錠できる一定の場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は日々の生活の流れの中で、一人ひとりが自然体で生活している。毎日の日課はあるが、本人の気持ちを尊重し、体調にも配慮しながら折り紙やぬり絵、プランターの草花の水遣りなど希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は野菜の下ごしらえ、ご飯や料理の盛りつけ、配膳などを利用者と一緒にいき、同じテーブルを囲んでさりげなく見守りながら、楽しく食事を摂っている。 時には、利用者の希望に応じて、回転寿司、うどん、ラーメン等の外食を楽しんでいる。月一回の誕生会にはおやつにケーキ、夕食は赤飯を炊き楽しいひとときを過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週に2回から3回となっているが、要望があれば心身状態に合わせていつでも入浴できる。入浴を拒む利用者には無理強いをせず、声かけや誘導で本人の意向に沿った入浴支援をしている。冬至にはゆず湯にして季節感を味わえる工夫もある。一階の浴室はリフト浴となっており、身体の不自由な利用者に配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	物干しや洗濯物たたみ、部屋のゴミ出し、床のモップ掃除、ガーデニングの水遣り、食事の盛りつけや片づけ、おやつ作りなどを利用者は率先して行っている。月に一回、趣味の書道、生花を楽しむなど利用者の個々の力を活かした場面つくりを支援している。 自分の役割を見出し自信や張り合いを感じ、達成感が味わえるようにそっと見守り支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課として近くに散歩に出かけて気分転換を図っている。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、その日の天候や体調に応じて外出支援をしている。事業所内外の掃除も一緒にいき、外の掃除はみんな竹箒を持って落ち葉など掃き、生活の中で季節感を肌で感じるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、道路に面しているため、安全面と防犯上の理由で通常施錠している。 1階・2階の各フロアの出入り口は日中は鍵をかけないようにしている。居室の鍵は、本人の自由に任せている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回行い、最近では平成19年9月に実施している。事務室には緊急連絡網を掲示し、速やかに対応できる体制ができている。2階には避難用すべり台も設置している。 今後は地元の消防署や地域の方の協力を得ながら、防災訓練・避難訓練の実施を検討している。災害時の食料備蓄は現在検討中である。	○	災害時の飲料水・食料等の備蓄の実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、法人の管理栄養士が献立表を作成している。カロリー・たんぱく質・脂質・塩分・カルシウムの摂取が毎食毎に記入され、管理者が確認している。水分の補給には職員が気を配り、一人ひとりに声掛けをして摂取量を確認している。食事量や水分摂取量は毎日バイタルチェック表に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が多くの時間を過ごす居間は、窓が大きく、明るく広々としている。雛飾りで季節感を出し、手作りの日めくりカレンダー、習字作品や各行事の記念写真を貼りだしている。利用者一人ひとりが赤ちゃん(職員の子供)を抱っこした写真があり、一年後に成長したその子との記念写真の、利用者の笑顔が印象的である。利用者の書初め「明るく楽しく元気よく、いつも笑顔で過ごしましょう」が掲示されている。スポーツ新聞・週刊誌もあり家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の各居室には、使い慣れた馴染みの家具、鏡台、仏壇の持込などで利用者が安心して暮らせる工夫をしている。テーブルやテレビの上に、家族との記念写真や、自身が作った折り紙、ぬり絵の作品、人形が置かれている。散歩のときに集めた紅葉などがセンス良く飾られ、一人ひとりの個性があり、居心地よく過ごせる部屋となっている。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげています	理念である「笑顔」をもって、散歩に出かけ地域住民と自由にふれあい、季節感を感じ、回りの環境を自分の物としています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいます	理念の掲示。余裕のある笑顔での接遇ができるように、報告、連絡、相談を強化し、チームワークをもって業務に取り組み入居者様と共に笑顔になれるように、ホーム会議等でも理念の話題を重視し見直しを図り、サービス提供場面において反映されています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいます	運営推進会議、家族会、一言通信で伝えています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めています	日々の散歩時には、隣近所様への挨拶は、入居者様、職員と共に自然と「笑顔」で行っています。七夕祭り、敬老祝賀会等行事に参加して頂いたり、回覧板を届けたり、草木の伐採をお願いしたり、ご近所付き合いを深めています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めています	自治会に加入しています。子ども神輿の来訪にて笑顔で迎え、大変喜ばれます。子どもフェスティバル、盆踊り、区民祭りなど小学校、地域の行事に積極的に参加しています。	

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいます	地域行事に積極的に参加して、ホームの紹介をしています。ホームのイベントへの参加を呼びかけてホームのことを知ってもらおうようにしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいます	評価の意義とねらいを深める為、職員研修を設けています。評価で見出された課題について改善計画を立て、職員会議を設け実施に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています	活動報告、今後の活動予定、事故報告等を行い、意見交換を行ってサービスの向上に反映しています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいます	福祉課へ認定更新手続き等の相談、保護課との連絡を密に行っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援しています	少人数の職員しか学んでいなく、情報提供を行っていません。	○	研修を検討します。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています	掲示し、職員ミーティングで常時話し合い、周知徹底しています。		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っています</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させています</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしています</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させています</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させています</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めています</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めています</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしています</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいます</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めています</p>		
<p><b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていますこと、不安なこと、求めていますこと等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしています</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていますこと、不安なこと、求めていますこと等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしています</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としています支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めています	営業所との連携、相談にて速やかに対策を考えて報告をしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫しています	一日も早く慣れて頂くようにご家族と相談し、普段使い慣れた物など持ち込んで頂き、今後グループホームで生活して行く事を認識して頂けるように、会話対応を大事にしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いています	食事を共にしたり、お茶を一緒に飲んで利用者の生活に職員も入れるように努力しています。利用者が何を求めているのかを言動などあらゆる面から探り傾聴、共感し、安心ができるように声かけをします。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いています	面会時、電話などでご家族と連絡を取り合い、情報交換を密に行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援しています	面会時は勿論のことご本人の状況をお話し、行事のお知らせ、参加を募っています。又、疎遠になっています家族には、電話連絡、一言通信で毎月行事予定を記載し、いつでも来訪出来る様に呼びかけています。をとっています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めています	ご家族、ご本人から情報収集して知人、友人が訪ねて来られる様な状況作りを行っています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めています	利用者の性格や生活暦を把握し、花の水遣り、ヤクルトの配達、ごみだし、外掃除、食器の後片付け、盛り付け、備品の組み立て、ネジの緩み直しなど個性を生かした役割をもって頂いています。		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしています	契約解除でご家族の元へ帰られ、住所地遠く該当無いです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。困難な場合は、本人本位に検討しています	定期的なカンファレンスや会議を通して言葉、行動などから汲み取ったり、ご本人の生活歴、ご家族からの情報を共有しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めています	入居前にご自宅を訪ね、本人の生活歴やご家族からの情報の把握して共有しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めています	バイタルチェック、食事量、排泄チェックの健康管理は毎日行っています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています	職員全体で日々の記録に反映させ情報を共有しています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成しています	日々の記録やも石送りから情報を集め変化があった時はアセスメント、モニタリングを行い新たな介護計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています	生活記録や申し送りノートに築き、変化のあった時など詳しく記録するなど協力機関、ご家族からの情報をケアプランに反映させ実践しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしています	月2回の訪問診療、週1回の歯科衛生士の口腔ケア、歯科医月2回、月2回の訪問看護師、24時間体制の医療との連携を行っています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援しています	消防署と連携し避難訓練を行ったり、ボランティアによる、折り紙、合唱、百八合奏、フラダンスなど楽しんでいただいたり、小学校で行われる行事に参加したりしています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしています	本人の意向や必要性に応じて他事業者やご家族も含め相談し利用者本位の支援が出来る様に努めています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働しています	運営推進会議は行なっていますが、参加に関して地域の協力が得られない。	○	今後は、地域性等保険者と相談させていただいています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援しています	かかりつけ医がなじみのドクターとなり医療連携をとっていません。		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援しています</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしています</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めています。あるいは、そうした場合に備えて連携しています</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有しています</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいます。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っています</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めています</p>		

項目	取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライドを傷つけないように配慮した声かけ、ニックネーム、チャン付けなどしないように気をつけています。又、排泄時なども戸を閉めて行っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしています	コーヒーと紅茶どちらにしますかと本人に決められる環境で行っています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しています	「何かすること無いかな」と話して来たりしておりますので個別に対応したり、昔話を聞いたり、ゆったりと自由に入居者の生活を制限するルールは作らず、入居者に合わせるようにしています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めています	「髪が伸びただけど散髪屋さんを呼んでもらえるかな」速やかに訪問理容にてカットしたり、朝の整容時に声かけとご自分でできない方はタオルで拭いたり、髭剃りもご自分で剃った後の剃り残しがあった時は職員が剃ったり、着衣の交換もできる限りご自分で選択するようにしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしています	職員が一方的にお味噌汁作り、盛り付け、食器の後片づけを入居者と共に行っています。また、外食したり食の楽しみを共有しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援しています	月2回の手作りおやつには何が食べたいかを聞いて、準備から出来上がりまで楽しんで行っています。また、入浴後などに好きなお酒をノンアルコールではありますが飲んで頂いたり、好きな時間に好きな食べ物を召し上がっていただいたりしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援しています	排泄パターンを記録に残し早めに声かけ、誘導を行い自力でのトイレ排泄の支援を行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援しています	一人平均2日おき位で、入りたくないときは無理強いをしない様に早番者が声をかけて入浴しています。また、季節に合わせたゆず湯、菖蒲湯を用意し入浴に対し楽しみが持てるように工夫しています。入浴のタイミングは可能な限り希望に添えるようシフトを工夫しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援しています	眠れるように室温、照明、音など環境を整えています。日中でも自由に休息を取っています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしています	個々にあった役割を持って生きがいになれるように、たとえば、食に関する職人だった方には、盛り付け、かたづけ、おやつ作りの手順時から出来上がりまで楽しんで行ってもらえるように、又、洗濯物を干す、たたむ、ガーデニング、花の水遣り、色塗り、書道、生花など行っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援しています	個々の能力に合わせてご家族とも相談し、お金は自己管理で所持しており買い物に出かけた折には、所持金から払って頂いています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援しています	希望を募って散歩、草木を見る、戸外でお茶を飲んだり、屋外の掃除を一緒に行っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援しています	どの様な所へ行ってみたいか利用者に聞いて、ご家族に募り、バスツアーを計画しご家族様も一緒に出かけています。		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしています	年賀状を書いたり、ご本人宛に届いた物はお渡しし、電話がかかってきたときは取り次いだり、かけたいときにはかけていただいています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫しています	ゆっくり過ごせるように、ご本人の希望するお部屋、フロアへご案内いしてお茶をお出し、時には近況を話したり写真を見て頂いたりしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます	「身体拘束の無いケア」を掲示し、職員全体に意識を持つため会議等で話し合う機会を作りケアに当たるように努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいます	防犯上、安全策理上の理由で施錠している扉もあるが、可能な限り鍵をかけず入居者の生活空間を広げている。施錠している扉も本人の訴えにより開錠しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮しています	職員は常時フロアにいることを位置づけ見守りができるようにしています。その場を離れる時には必ず声をかけあいをするように努め夜間は巡視をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしています	生活習慣上必要な物品は可能な限り自己管理していただいています。注意が必要な方の習性の把握、一緒に行動し助言することで危険回避、定期的な収納庫のチェックをしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいます	各入居者のアセスメントを行い、ケアカンファランスを行った上で、ケアプランを作成しています。また、完成したケアプランは生活記録に反映させるべく、一体化したファイリングを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っています	末期がんの入居者がいたため、医療機関と連携し急変時に備えた指導を受け、実践してきました。急変事故発生マニュアルを作り周知徹底しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけています	防災訓練を年2回、入居者を交えて実施しています。また、厨房以外の室内は火気厳禁とし、止むを得ず使用する場合は職員が必ず火気が消えるまで立ち合うことを徹底し自主点検表で防火管理を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っています	入居者の身体状況の変化に応じてご家族様に電話連絡するほか、「一言通信」を毎月発行し日常状況を報告しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けています	毎日2回の健康検査(体温、血圧、脈拍、顔色)、帰宅時のうがいなどを慣行し病気にならないよう努めています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用しています薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めています	薬の内容が変更になる都度、申し送りノートに変更内容を記載し、周知徹底を図っています。薬の作用・副作用については薬剤師に指導を受けています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいます	水分補給や、健康飲料(牛乳、豆乳、ヨーグルト、乳酸菌飲料)などの摂取、腹部マッサージや適度な運動を心がけています。必要に応じて主治医と相談の上、下剤を服用していただくこともしています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしています	歯科医院による口腔管理が定期的になされています。このほか、毎食後に歯磨きを呼びかけ、介護が必要な方に対しては職員による介助を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしています	食事量・水分量についてはバイタル・服薬チェック表に欄を設け、日常の喫食状態を把握すると共に、食事を共にすることで食事の形状がその入居者に合っているか確認し対応しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行しています(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいを敢行し、感染予防に努めています。さまざまな感染症については、その内容を申し送りノートへの記載や、職員会議での議事として職員への周知徹底に努め、流行の感染症は研修を行い予防の知識を深めています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めています	中国産原材料については納入業者より使用する原材料ごとにその規格証明書の提供を義務付けるなど使用する食材の安全性確保に万全を期しています。衛生管理マニュアルを作成しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしています	玄関が奥まっていますので、道路に面した壁面に「みんなの家・横浜三保」のプレートや手作りの餌台、花壇などを設け、明るい雰囲気にするよう心がけ、町内会などの出席等で近隣に来る方を呼びかけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしています	のれん、レースのハーフ丈のカーテンなどによる家庭的な雰囲気作り。入居者の習字作品、行事の手作り写真集を壁に設置するなどして、暖かな空間を演出しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています	備え付けで用意している家具もありますが、入居者の好みにより使い慣れた家具を持ち込んでいただいています。お部屋に自分の好きな花や愛着のある人形、写真を飾っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施しています内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいますことも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています	クローゼット、たんす、ベッドは備え付けられていますが、その他のものについては、持込自由としています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っています	入居者に四季折々を感じていただくため、日に一度居室の窓を開けています。それ以外は、動きの少ない入居者に合わせた気温調節を心がけています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫しています	トイレ・浴室等は必要なところに手すりを配置、居間・食堂はテーブルの間隔を広く取り、車椅子やシルバーカーでの移動に支障が無いよう事故防止に努めています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫しています	排泄などの失敗を本人が気にしないような声かけ、相手が思い込んでいる時代に話を合わせるなど、本人が不安にならないように接するよう努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしています	施設の脇を通る小道を有効活用し、毎朝、散歩を実施しています。 花壇の草花や、屋外に設置した餌台に小鳥が立ち寄るようになったことで、なおいっそう屋外に出る機会が増やせた。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念「笑顔」。入居者様、職員共々に明るく、元気よく笑いの絶えない生き生きとしたホームです。玄関、フロアの飾りつけは四季折々に合わせ、折り紙を折って貼ったり、色塗りをした物を楽しんで貼っての雰囲気作り。お花を入れた壁掛けを各お部屋の入り口に飾り、自分らしさを強調するためのれんを下げました。手作りおやつでは準備から一人一人が役割を持って最後まで行われ充実感を感じております。玄関前、玄関ホール、2階エレベーターホールにはテーブル、いす、観葉植物を設置し空間作りを行い、自由に利用ができるように工夫しました。ホーム内外の清掃も毎日、利用者と一緒に、冬場以外の外掃除はみんなで竹箒を持って掃き掃除をしています。ホーム周辺は緑が多く四季の移り変わり、ご近所の方との会話を楽しみに毎日散歩へ出かけています。野鳥も多く餌付けに成功し利用者と共に遠くから楽しんでます。